



第5期

愛媛県

学力向上推進計画



令和8年3月
愛媛県教育委員会

第5期愛媛県学力向上推進計画

1 策定の趣旨と基本方針

● 策定の趣旨

県教育委員会では、教育の振興を通じ、優れた人格と能力を兼ね備えた有為な人材の育成を目指して、様々な施策に取り組んでいる。近年、学力向上に関しては、全国学力・学習状況調査において、教科調査における教科の平均正答率や質問調査における「授業理解度」の肯定率が小・中学校ともに全国平均を下回る結果となっており、「読解力の育成」と「基礎・基本の確実な定着」、それらを達成するための「授業理解度の向上」を、喫緊の課題と捉えている。

また、今後の変化の激しい時代を生き抜く愛媛の子供たちに目を向けたとき、自らの人生を舵取りし、豊かな可能性を開花させるために必要な資質・能力を確実に身に付けることがより一層重要になると思われる。そのため、時代が変化しようとも価値ある教育の在り方を継承しつつ、実感を伴う「リアルな学び」を重視するとともに、子供の主体的な学びを支える発達段階に応じた「デジタル学習基盤」のより効果的で適切な活用の推進や、多様な特性をもった子供たち一人一人を包摂した学習指導の充実を図りたい。

そこで、子供たちの学力のより一層の向上に向け、学習指導要領改訂に向けた議論を踏まえながら、若手からベテランまで、全ての教員がそれぞれの強みを発揮するとともに、子供の学びに関わる全ての者（県・市町・学校・家庭・地域・大学）が一体となって「オール愛媛」で取り組んでいくことを目指し、第5期計画を策定する。

● 基本方針

子供たちの「知りたい」を育み、心の底から「分かった」「できた」という喜びを生むための授業づくりに視点を当て、子供たちに基礎・基本の確実な定着を含む、確かな学力を着実に身に付けさせる。そして、長年にわたって蓄積してきた愛媛教育のよき伝統を継承するとともに、新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指した教育を推進することで、更なる学校教育の質の保証・向上を目指す。

そのために、

(1) 「愛媛が目指す授業」づくりの推進

子供たちが問いを発する授業、解決に向けて学び合う授業、思いや考えを確かめ深める授業の創造を目指す。

(2) P D C A サイクルの強化

教育データの詳細な分析とその結果に基づく継続的な指導改善を目指す。

(3) 学習指導要領改訂及び課題への対応

全ての教員がそれぞれの強みを発揮しながら、子供たちの確実な学力の向上を目指す。

2 目標と成果指標

● 目標

学校教育の質の保証・向上

～「知りたい」を「分かった」「できた」につなぐ子供の育成～

● 成果指標

全国学力・学習状況調査において、次の指標を達成する。

【教科調査】

各教科の I R T スコア※が全国平均以上かつ前年度以上である。

※正答数ではなく、「どの程度の難しさの問題に正答できたか」というものさしで学力を推定し、500を基準にした得点で表したもの

【質問調査】

次の項目の肯定率が、全て全国平均以上である。

- ・「各教科の授業の内容がよく分かる」
- ・「分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」
- ・「授業で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている」
- ・「課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいる」

3 計画の期間

令和8年度から令和13年度までの6か年

年度	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13
フェーズ	基盤形成期		実践推進期		成果定着期	
指 標	➤ 教科調査における各教科の I R T スコアが全国平均以上かつ前年度以上 ➤ 「各教科の授業の内容がよく分かる」の肯定率が全国平均以上 ➤ フェーズ進行とともに 3 つの重点項目の肯定率が全国平均以上					
	重点項目	学びの振り返り 「分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。」 ➡ 学びの活用 「授業で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている。」 ➡ 学びの自律自走 「課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいる。」				

(1) 「愛媛が目指す授業」づくりの推進

県の取組	市町・学校の取組
◆「愛媛が目指す授業」に向けた、授業づくりのポイントや視点の提示 ◆授業力パワーアップ研究会による授業モデルの提示及び好事例の横展開 ◆生成 A I を活用した教材開発や授業実践に向けた伴走型支援及び活用事例の提示	■「愛媛が目指す授業」の学習過程や重点項目を意識した授業改善 ■目指す授業像に視点を置いた校内研修の充実及び好事例の活用 ■生成 A I の活用による、個々の特性に応じた教材開発及び学習意欲を喚起する授業実践の推進

(2) P D C A サイクルの強化

県の取組	市町・学校の取組
◆国や県の学力調査等の詳細な分析結果から県・市町・学校が抱える課題の的確な把握及び市町・学校へのフィードバック ◆分析データに基づく、県の教育施策の立案及び施策・取組の検証と改善 ◆有識者等との連携による、分析データに基づいた P D C A サイクルの構築と強化 ◆学力向上推進主任研修会の実施及び各学校の学力向上推進計画策定に向けた指導・助言 ◆学力向上推進計画の定期的な検証及び好事例の横展開	■分析結果を踏まえた、具体的な授業改善の視点の共有 ■分析結果を活用した、市町の教育施策の立案及び学力向上の取組に対する効果検証と改善 ■P D C A サイクルに基づいた学力向上の取組に対する効果検証及び好事例の共有と活用 ■エビデンスに基づく学力向上推進計画の策定 ■学力向上推進計画の定期的な検証及び見直し

(3) 学習指導要領改訂及び課題への対応

県の取組	市町・学校の取組
◆学習指導要領改訂に向けた、教員対象の管内別教育課程説明会の開催 ◆組織的な学力向上の取組の推進による若年教員の指導力向上に向けた研修内容の充実 ◆読解力チェックテストの作成及び実施、課題の共有による指導改善の支援 ◆学習習慣と生活習慣の定着に向けた、分析データに基づく効果的な取組の共有 ◆読書習慣の定着を図るための E I L S 読書通帳（みきゃん通帳）の活用支援	■学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた、教育課程の組織的・計画的な編成、改善 ■若年教員の指導力の強化に向けた、研修体制の構築及び校内研修の充実 ■読解力の課題克服に向けた授業改善の実践 ■授業内容と関連した家庭学習の充実と、家庭と協働した生活習慣の確立 ■E I L S 読書通帳の活用促進による、日常的な読書活動の充実と読書習慣の定着

目標：学校教育の質の保証・向上
「知りたい」を「分かった」「できた」につなぐ子供の育成

愛媛が目指す授業

「分かった」「できた」

子供たちが
思いや考えを
確かめ深める

子供たちが
解決に向けて
学び合う

子供たちが
問いを発する

「知りたい」

「リアルな学び」の重視
「デジタル学習基盤」の活用

新たな問いを
発する

確かめ深める

学び合う

問いを
発する

Action (改善)

Check (評価)

Do (実践)

Plan (計画)

オール愛媛で育む確かな学力

家庭・地域

- ・学習習慣や読書習慣の定着
- ・生活習慣の確立



学校

- ・学力や学習状況の的確な把握
- ・多様な子供たちを包摂した学習指導の充実
- ・基礎・基本の確実な定着

県・市町・大学

- ・分析データに基づいたPDCAサイクルの構築と強化
- ・学習指導要領改訂に応じた学びの構築

(参考資料) 学力向上の取組に関する提言 (令和8年1月)

県教育委員会では、平成24年度に「愛媛県学力向上5か年計画」をスタートさせて以来、市町教育委員会や学校と一体となり、着実に学力向上施策の充実に努めてきた。令和5年度以降、学校教育の質の保証・向上を引き続き目標に掲げた、「第4期愛媛県学力向上推進3か年計画」を推進してきたが、近年の全国学力・学習状況調査では、教科調査における教科の平均正答率や質問調査における「各教科の授業の内容がよく分かる」の肯定率が小・中学校ともに全国平均を下回る結果となっており、「読解力の育成」、「基礎・基本の確実な定着」と、それらを達成するための土台作りとなる「授業」の理解度を向上させることが、喫緊の課題となっている。

今後、生成AI等デジタル技術の飛躍的な進化等により、変化の予測がつかない時代を生きることになる子供たちにとって、解決が困難な課題に対しても、身に付けてきた知恵と知識を駆使しながら、他者とうまく協働して最適解を見いだしていく力を育てていくことが求められている。このような力を育成するためには、現在、本県における課題である読解力の育成や基礎・基本の確実な定着はもとより、子供自身が問いを持ち、探究心や知的好奇心を揺さぶられながら解決に向けて考えることを通して、心の底から「分かった」「できた」という喜びを実感し、更なる意欲や向上心に繋げていく経験を重ねていくことが重要である。

そこで、各学校においては、子供が自ら問いを発し、解決に向けた他者との試行錯誤の過程を通して、様々な考えや意見に触れることで自分の思いや考えを深める授業の創造を期待したい。こうした取組を進めていくためには、現在の子供たちの学力の実態をしっかりと見定め、これまでに各学校・各地域で確立してきたPDCAサイクルの在り方を今一度見直していくことがまずは大切である。その上で、若手からベテランまで、全ての教員が、それぞれの強みを発揮しながら、「教育立県えひめ」の実現を目指し、愛媛で学ぶ全ての子供たちに、全国トップレベルの確かな学力を着実に身に付けさせることができるよう、授業改善を核に、更なる学校教育の質の保証・向上に努めていただきたい。

具体的には次の点を提言する。

1 教育データの利活用

- 全国学力・学習状況調査や県独自の学力調査のデータを、より詳細に分析
- 分析結果を踏まえた取組の推進
- 市町教育委員会との連携強化による市町や学校へのフィードバック

2 課題への対応

- 「知りたい」「分かった」「できた」を実感する授業の創造に向けた授業研究
 - 子供たちが問いを発し、解決に向けて学び合い、思いや考えを深める授業の創造
 - 基礎・基本の確実な定着
 - 実感を伴うリアルな学びと、それを支えるデジタル学習基盤(生成AI等を含む)の発達段階に応じたベストミックス
 - 参加したくなる魅力的な授業づくりと学習機会の確保
- 県独自の学力調査等の更なる充実
 - 学習状況の把握、授業改善に向けた提案をする問題
 - 読解力の育成に向けた、情報を整理・活用する力を測る問題
 - 基礎的・基本的な内容の定着を図る問題
- 読書習慣の更なる定着
 - 学校図書館の積極的な利活用や読書活動の充実
 - EILS「みきちゃん通帳」の効果的な活用
 - 読書習慣の定着を図るための家庭へのフィードバック
- 学習の「継続」と「習慣化」を図るための家庭学習の充実

3 学習指導要領改訂に向けた対応

- 国の動向等、改訂に向けた最新情報の収集
- 全教員を対象とした説明会の実施
- 職務経験に応じた、授業力向上に係る研修の充実